

誰もが安心して治療・療養できる医療現場実現のために

3年4組4番 江原 花梨

1. はじめに

現在の医療現場における現状と課題はたくさんある。現状や課題は医療従事者だけでなく、あらゆる視点から起きている。

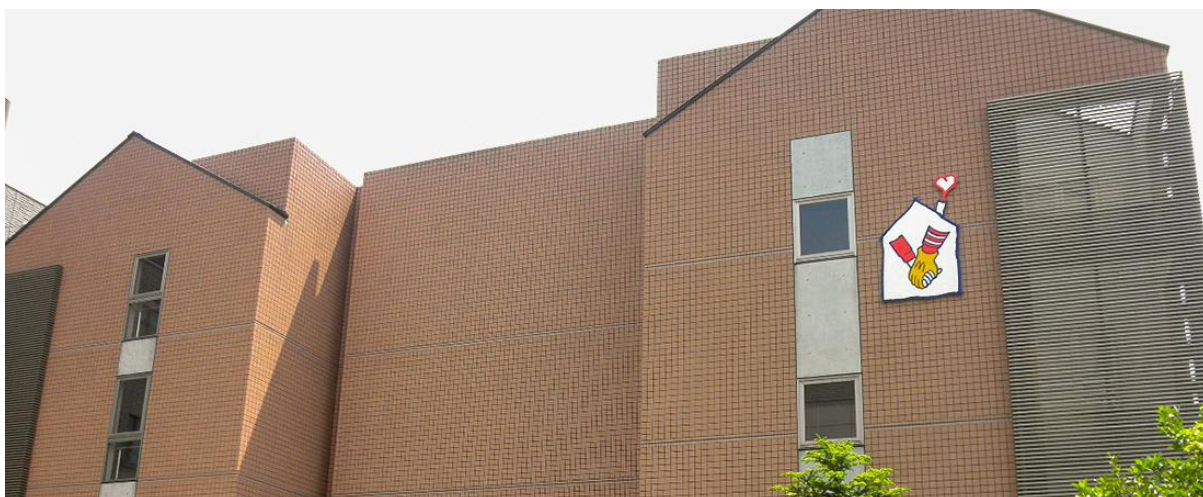
私はその中でも子供が病気になった時家族とも離れずに病気に立ち向かうためにはどうしたらいいのか。患者さんから看護師さんに対しての視点からみて、なぜ患者さんが看護師さんに暴力をふるってしまうのか。暴力をふるってしまう原因は何なのか。それに対する看護師さんの想いはどうなのか。少しでも、起きてしまう原因を見つけ研究していきたいと思ったから。

2. 序論

はじめに、子供は病院が怖い場所だと思っている。そんな子供たちが不安な気持ちが少しでも減り、治療に取り組める場所にしたい。だか、自分では大抵難しい。そんな中日本公益財団法人より家族いっしょの温かな時間。「家族支援」を提供している場がある。次に、安心してたくさんの医療現場の中で看護師さんは安心して患者さんと対して働きたいと思っている。そこにはある理由がある。看護師さんは患者さんに暴力をふるわれている。患者さんはどのような気持ち、どのような意図で暴力をふるっているのか探究していきたいと思ったから。

3. 本論

もしも子どもが病気になったら子どもが病気になったとき、家族はなによりもまず、子どもに最善の治療を受けさせよう。と考えるもの。でも、もしその病院が自宅から遠い場所にあったら、家族の負担は精神的にも肉体的にも、そして経済的にも大きなものになってしまいます。そんな時、親は、自分のことなど二の次で、子どもの治療に専念しようと、何日も病院のソファで寝たり、三食を簡単な弁当で済ませたり。その上、遠くの家に残された他の子どもたちのことも心配しなくてはならない。そこでドナルド・マクドナルド・ハウスは、このようなご家族をサポートするために生まれました。コンセプトは” Home-away-from-home ”わが家のようにくつろげる第二の家。病気のお子さんに付きそうご家族が、自宅にいるようにゆったりすごせること、それがハウスの願いになっている。” Keeping Families Close ”、どんな時でも家族と一緒にいられるように。



そこで、実際にドナルド・マクドナルド・ハウスはどれくらいの人知っているのか。実際2019年、2020年の年間報告書より2019年は利用家族数が7310家族の方々が入院中のお子さんに寄り添い、16508人がハウスを利用し、ゆっくり落ち着いて休むことができ、40342泊を提供したくさんのご家族の経済的そして精神的負担が軽減された。2020年では利用家族数が2360家族の方々が入院中のお子さんに寄り添い、4639人がハウスを利用し、ゆっくり落ち着いて休むことができ、19001泊を提供したくさんのご家族の経済的そして精神的負担が軽減された。とあるようにたくさんの方が利用されています。そんな利用されてるご家族からの声では、家族がバラバラに生活しないといけない寂しい思いをしている時に月1度のペースで家族みんなと一緒に集まり家族の時間を過ごせた。ハウスを利用する度に優しく声をかけてくれる。ハウスは私たちにとって第二のわが家でもあり、息子の成長を一緒に見届ける場でもある。同じ病気を持った子供のご家族と仲良くなったり、ボランティアの方々との交流が心の支えになり、不安を取り除けた。など、誰もがハウスを利用して良かったと思っている方がたくさんいる。病気を持っている、寂しい思いをしてる子供達にはハウスを利用してほしいと思う。子供たちが不安にならず笑顔になり、ご家族ともに不安にならない環境がいち

ばん大切だと思う。

2019年活動報告

利用家族数

7,310 家族

2019年は7,310のご家族が滞在され、入院中のお子さんに付き添うことができました。



患者を含む両親や兄弟

16,508人がハウスを利用し、

ゆっくり落ち着いて休むことができました。

16,508人

2019年は40,342泊を提供
たくさんのご家族の経済的そして精神的負担が軽減されました。

総宿泊数

40,342 泊

2020年活動報告 Flash Fact



利用家族数

2020年は2,360のご家族が滞在され、入院中の子どもに付き添うことができました。

2,360 家族



利用人数

2020年は4,639人が
ハウスでゆっくり休む
ことができました。

4,639人



総宿泊数

2020年は19,001泊
提供することができました。

19,001 泊

Annual Report 2020

(2019年年間報告書より、2020年年間報告書より)

なぜ患者さんは看護師さんに暴力をふるうのか？

治療・療養している方のたいはんが不安、イライラや恐怖などの心情になりやすい気持ちをかえている方が多い。また、看護師さんと患者さんは、物質的、心理的な距離が近くなりやすい側面がある。そして、暴力をふってしまう感情になるのは、「自由に行動できない」

「思ったようにストレスが発散できない」といった感情になりやすくなる。特に、入院の場合は生活環境も変わるため、不安や心配がさらに大きく膨れ上がることもある。その中で看護師さんは患者さんに対して何をしてあげたり、接したりしているのでしょうか。まずは、患者さんとゆっくり話す時間を設けて、不安の原因を知る。接する時は、患者さんの不安をしっかりと受け止めるためにも、静かな場所でゆっくりと話をする時間を設け、しっかりと向き合う姿勢を見せることで、患者さんからの信頼度が高まり、不安の軽減にもつながることもある。2つ目は傾聴と共感で患者さんに寄り添うこと。日々の忙しい業務の中で、一人一人の患者さんと向き合うのは、正直難しいところがある。しかし、新型コロナウイルスの影響で面会などが制限されている現在は、患者さんのストレスや不安が増大しがち。そのため、いつも以上に「訴えに対してしっかりと向き合うこと」が求められているのも事実になっている。患者さん自身も健康な状態であれば必要のない入院や通院をする中で自由度が低い中治療や療養し、いろいろなストレスがたまってしまい、暴力に繋がってってしまう。

こうした状況には、どのように対処するのが良いのでしょうか？業務のなかに、できるだけケアの時間を取り入れるように工夫することが大事であり、そうすると、患者さんがほっとした表情を見せてくれたり、感謝の言葉を患者さんの口からおっしゃってくれるそんな時は不安が軽減できたことが実感できる。このように、患者さんを責めずに、患者さんの状況に合った対応やアドバイスをし少しでも不安を軽減させ元気づける対応をすることが患者さんの気持ちに変化が繋がると思う。

看護師さんが受ける暴力は大きく分けて3つある。1つ目は身体的暴力、2つ目は言葉の暴力、3つ目はセクシャルハラスメントの3つに分けられる。

そして、勤務する看護師さんのうちこのような暴力を受けている方々が3割以上いる。その中でも1番多く身体的暴力を受けている方が96.6%、次にセクシャルハラスメントを受けている方が56.1%、3番目に言葉の暴力を受けている方が33.7%いる。

このような暴力が発生する場所は発生率が高い場所として病棟のICU/CCU、内科、保健師の個人訪問、老人保健施設などで多いと言われている。しかし今では保健医療福祉の現場全てを暴力が発生する場所と考えて取り組む必要があると考えられる。

暴力は被害者だけではなく、加害者、目撃者等、関係する全ての人に悪影響を及ぼす。暴力は、身体的な傷害のみならず、被害者の心身に影響を及ぼし、急性ストレス障害や外傷後ストレス障害の原因になることもある。また、被害者は暴力そのものだけでなく、状況報告を行った際に上司や同僚から「あなたにも原因があった」「どうして避けられなかったのか」等の質問を受けることにより二次的な被害を受けることもある。そんな暴力を受ける看護師さんは、暴力を受け入れ、理解するしかない。看護師さんは、患者さんから受ける暴力は、病気のせいではなく、患者さん、自分自身で納得していない部分があるので、看護師さんの最終的な気持ちは、「被害を訴えたい」わけではなく、「安心して働きたい」だけ。看護師さんは、こんな被害を受けている、こんなひどい目にあっているというのを訴えたいのではなく、患者さんには、少しでも不安や悩みを抱え込まないで、安心な場所で、治療や療養を受けてもらいたいと思っており、看護師さんたちにとっても、安心な環境で働き、本来の治療や療養をみんなに提供していきたいと思っている。

4. 結論

病院は患者さんからの意見が大切だと思うので、患者さんが過ごしやすいと思える環境を病院側が作っていくのが大切だと思うので自分自身でも考えていきたいと思う。

ドナルド・マクドナルド・ハウスは実際によく知られており、利用されてる方みんなが過ごしやすい環境で、子供の成長を見届けれる安心な場となっているので、ハウスをより良くするにはどうしたらいいのかこれから私自身も考えていきたいと思う。

今でもあるドナルド・マクドナルド・ハウスをたくさんの子供たちに広めていき子供が生き生きと過ごしご家族ともに笑顔になれる場だと勧めていきたいと思っている。

これからは患者さんみんながどうしたら不安なく患者さんにとって過ごしやすい安心、安全で治療を行っていただける環境を引き続き考えていきたいと思っている。

まだこの世の中にはな自分自身でなりたくなっている訳でない病気をもっている方はたくさんいるからそんな人たちのために自分がこうされたら治療に専念できると患者さん側の視点に置き換えて考えていきたいと思う。

5. おわりに

自分も将来は医療現場で働きたいと思っているので自分が働くとなった時自分自身も良い環境で働くのがいちばんだと思い、患者さんにとっても大丈夫って思えるのが大切だと思った。患者さんのことを第一に考えて働くのが看護師さんの仕事なので、看護師の意見だけでなく患者さんの意見をしっかり受け止め、こうしたら患者さんもしっかり受け入れてくれるというのを考えるのが大事だと思った。

幼い子供達にとっては家族と過ごせるとても大事なハウスだと思い、1人で病気と戦うのではなく家族に成長を見てもらいながら治療できる場がとても良いと思った。子供達も実際は自分の家で暮らしたいと思ってる中でも家族と一緒にいれるハウスが我が家だと思っている

といいなと思った。高齢者や若い子供だけと問わず患者さんみんなががんばれると思える場をこれからも見つけ考えていきたい。

6. 参考文献・出典

公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
年間報告書2019年

<http://www.dmhcj.or.jp/wp/wp-content/themes/bridge/pdf/annual19.pdf>

公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
年間報告書2020年

<https://www.dmhcj.or.jp/wp/wp-content/themes/bridge/pdf/annual20.pdf>

日本看護協会 保健医療福祉施設における暴力対策方針 2007年

<https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/bouryokusisin.pdf>